
真田軍 猿飛佐助の苦悩の日々

桐生結奈

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

真田軍 猿飛佐助の苦悩の日々

【Nコード】

N3384N

【作者名】

桐生結奈

【あらすじ】

時は戦国時代。甲斐の国・武田軍の大将である武田信玄はある日病に倒れてしまった。武田の武将・真田幸村はそのことにショックを受けその場に崩れてしまう…。

その姿を見た猿飛佐助は助言するのだが、それがきっかけで幸村の暴走が始まる。果たして真田軍は勝利することが出来るのか。

（前書き）

幸村の暴走が書きたくて書かせて貰いました。佐助が不憫でなりません。ゲームでもアニメでも…。優秀な忍には苦勞が伴うものなのです。

時は戦国時代

甲斐の虎と呼ばれた武田信玄が病に倒れ、武田軍の勢威は衰えていた。尊敬の象徴である『お館様』が倒れたことを知った、武将・真田幸村は哀しみに打ちひしがれていた。

「お館様…幸村は…お館様がいなくては…何も出来ませぬうつ…！」

「真田の旦那、嘆き哀しんでいる場合じゃないでしょ、しっかりしないとお館様に怒られちゃうぜ？」

武田軍の忍である猿飛佐助は地に伏せ嘆きまくっている自分の雇い主に言った。

「うむ…しかし、佐助…某に出来ることはあるのか？お館様なくば戦に勝利することなど到底適わぬことではないのか…？」

お館様が倒れ、自分を支えてくれる柱が無いことに大打撃を受けている幸村はただ、ただ後ろ向きになるばかりだった。

「はいはい、そうね。でも、この状況を打破しないとそれこそお館様に申し訳が立たないんじゃないかな？って俺様は思っただけさ？」

溜息を吐きながら佐助は現状を提案してみる。幸村は「確かに…佐助の言うとおりでござる…」と同意していた。

「とにかく、今の大将はアンタだ。ほら、立って皆の士気を上げないといけないでしょ？」

けろりと言う佐助だが、幸村はその言葉に頷き、立った。

「見ていて下されお館様あああつ…！！幸村は必ずや勝利いたしまするうつうつ…！！！」

言っなり幸村は戦場へと走り出した。敵将のいる拠点まで一直線に。

「え？え？ちよつと真田の大将っ！？何いきなり突っ込むのー！？」
驚きのあまりツッコむ佐助。そして幸村は火炎脚などを連発して暴走していた。吹き飛ばされた相手の軍は近くにいた味方をも巻き込み、倒れていく。

「や、俺様のせいじゃないでしょ…。真田の大将の暴走は誰にも止められないからね…」

そう言う佐助は煙を撒いてそこから姿を消した。幸村の暴走により戦は終焉を迎えた。

「お館様っ！！幸村はやりましたぞおおおおっ！！おやかたさまああああっ！！！」

暴走しつくした幸村は清しい気持ちだった。佐助は勝利したことに安堵した。この先の不安は拭えないまま。

「で、真田の大将。これからどうするのー。まさかお館様がいないからどうしようも出来な〜いっ！なんて言わないよね？」

幸村は図星を当てられ、黙るしかなかった。

「あ、あれ？図星だったりー？？ちよつとしっかりしてくれないと俺様困っちゃうぜー？」

慌てる佐助。黙っていた幸村が口を開いた。

「佐助、今まで某はずっとお館様について行くだけであつた。それが全てだと思っていたのだ…。お館様が倒れられてしまった今、その様な甘んじた考えはしてはならぬのだろう…。だが…どうすればいいのか…某にはさっぱり分からぬ…」

今までずっとそうだっただけに幸村は困惑していた。信玄がいない武田軍は小さくなるばかり。それでは他の軍はおるか徳川家康を倒す事など、夢のまた夢であろう。

「上杉殿がこの現状を見れば、どれだけ哀しむことだろうか…。某が情けないせいで…隊の者達も不安であろう…。どうすれば…いいのだろうか…。佐助…教えてくれっ！！」

あの軍神が哀しむとは思えない、と思う佐助だが敢えて口には出

さなかつた。

「俺様が言える事は、お館様の夢を大將が果たすことこそがやるべき事じゃないのかい？出来ることあるんじゃないの？軍を引っ張れるのはアンタだけなんだぜ？」

良い事言つたな俺様、と自信満々で鼻を鳴らしながら答えを待った。

「某の出来る事…。そうか…徳川家康を倒すためには三成殿と同盟を組むほかないでござるっ！！！佐助っ！これより同盟を組みに参るぞおおおおっ！！！」

と言うなり幸村は馬を走らせた。石田三成のいる大阪城へと。

「真田の大將っ！？まさか今から大阪に行く気なのっ！？さつき戦やったばかりでしょっ！！！！って人の話聞いてないしっ！！！！」

その言葉は幸村にはすでに届かない場所へと進んでいた。部下たちもまた馬を走らせ後についていくのであった。

「人の話は聞こうね…」

溜息を吐きながら佐助もまた幸村についていくのであった。

おしまい。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n3384n/>

真田軍 猿飛佐助の苦悩の日々

2010年10月10日01時12分発行